



○合格体験記

県総体が終わりました。多くの3年生は受験モードへの切り替え(ステップ)となります。このあと大会やコンクール等がある部活動の人も含め次の最終切り替え(ジャンプ)は学園祭後です。ちなみに最初の切り替え(ホップ)は今年1月の共通テスト後でした。それぞれ飛ぶ間隔や距離は違えども、いい切り替えをしながら夢の実現に向けて頑張りたいと思います。



三刀屋高校の『合格体験記』が発刊されました。そこで切り替えについて触れている卒業生がいました。「吹奏楽コンクールが夏にあり、多くの仲間が受験勉強一色になっている中で焦る気持ちもあったが、思い切って部活動に振り切って頑張った。やり切ったことが、自信やモチベーションにつながり、残り期間を受験勉強一色に振り切って全力投球できたから合格できた。」というような内容でした。

挫折をバネにしたと書いている卒業生もいました。「総合型選抜は不合格だったが、この時受験を通して定めた目標(志)が、高いモチベーションをもたらし、気持ちを切り替えて受験勉強に取り組むことができたことが、国公立大の前期試験での合格につながった」というような内容でした。

入学式等で次のような話をしました。「小さな挑戦、小さな気遣いは、自分の限界を少し超えた目標設定とそのための大きな志を持つことからはじまります。それが努力の過程を充実したものとします。大きな志だからこそ、結果以上に、努力の過程で自分に手応えを感じます。その過程で失敗や挫折があっても、その都度達成感が生まれ、次への意欲が沸くはずです。未見の我、成長していく自分との出会いが何度もあるはずです。…」

これまでの校長室だよりで、富士山登山の「胸突き八丁」について何度か触れました。挑戦をする中で、最後の1～2割は違う質のものが待っているというものです。挫折の多くはこの正念場でおきます。しかし、挫折とするか、意欲に変えるかは自分したいです。挑戦は何度でもできます。

昔担任していた時に、推薦入試への挑戦が受験勉強からの逃げたと感じる生徒に会うことが少なからずありました。そんな中ある生徒が「推薦入試を受けるのは、勉強以外の部活動を含む学校生活、そして学校外でのボランティア活動など自分が高校時代頑張ったすべてのことを活かしたいから」と言っています。今の本校・分校生なら、部活動だけでなく、探究学習や体験学習などから得た成果や学びなども、学校生活で培ってきたものとして活かせるはずです。

私は1年間浪人して大学に入りました。正直に言えば高校時代、受験勉強を本気でしませんでした。不安をやる気に変えられないまま共通一次試験(今の大学入学共通テスト)が終わりました。そんな時に担任が難関私立大の受験を勧めました。偏差値が20近くも離れていたのでもちろん不合格でした。しかし、その大学のキャンパスで受けたことで、また他の受験生と違い、高いお金を出してもらい東京まで受験に来たのに勝負すらできない自分の情けなさを感じました。同時に、来年は絶対に勝負できる学力をつけて大学受験をしたいという気持ちが沸き上がりました。浪人してからの1年間はいわゆる「4当5落(4時間睡眠で勉強するなら合格できるが5時間睡眠なら…)」で頑張りました。朝は5時から起きて記憶もの中心に勉強。その後早くから学校(補習科)に行って勉強。行き帰りの電車では苦手な国語克服を兼ねて読書。テレビはニュース以外見ませんでした。夜は1時頃まで机に向かっていました。平日は1日8時間以上勉強したと思います。人間やる気になればできるものだと思います。気づけば偏差値も落ちた私立大が合格レベルになるところまで伸びていました。唯一の楽しみは、早見優のラジオ英会話の時間。合格して大学に旅立つ前の3月、奇跡の出来事が…出雲に早見優がコンサートに来て、最前列で観られたのです。神様からのごほうびだったと今でも思っています。